



13
1625
4

泉孫



風流勅進能卷之四

目録

第一 森大名

かく終もな^とい^と名^の抄^の付^を
そ^の別^をお^いと^らぬ



風流勅進

第二 之輪

之すの糸に注とあまてめ
登のほよのうめ白く

第二 宗論

法苑珠の法門のくひき
まもんねめ餅と酒との法

たのた大名

かまもあたる名は積小をハレせどもまのあまがあまがうた席を
よと只二人の夕たぶ飯米も心なぬは通でいさ男もは後
は美と好てゆ末がんえあおるる小思ひ付いひが染る先を席
今もやと唯出お流を夜をたね方ヤイくを席をうたあら
ヤたのあざ人が唯せとるるやいおまよ神のあまらるは唯出せ
ゆあまてあま通を好お流がい世後と只二人たぶ飯米もあま上
あまもあま思ひぬらひまあもいつでハレ上あまもあまて好てねり海い
あまもあま思ひぬらひまあもいつでハレ上あまもあまて好てねり海い
あまもあま思ひぬらひまあもいつでハレ上あまもあまて好てねり海い
あまもあま思ひぬらひまあもいつでハレ上あまもあまて好てねり海い

とじあつていづれの大席なりやませらるる面もみづるは世のいさかきとるまら

道業とすまらるるいづれもいづれもはせふいづれもはせまて人か笑をささるるいづれ

と物でいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

かあつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

てくまぬといふてははるそは海ぬぬとて海に上りて御本の人を

新懐甲の物とて死なせんとせよあつていづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

戸物でいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

経路がそゝるいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

小もあつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

かゝる相見のいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

肉はあつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

松系で合合とせぬとていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

おつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

ていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

向あつていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

以秋大名



世に田代月代才こ夜代甲子庚申のありて夜申がしく仕じしに
根の明とと親とふるものも申をけ庚申代と才一は夜杯
ひきこせりかしく子身中の虫息よと又帝(号)して夜もさ
仕じしと煮飯よてんか又八の長煮飯さくの酒肴と通てり
根のあやうと庚申代下上申下の仕ひつくと上取といふ十根が長根
根を申代りしハ知分連他申あハ及ハ相承はしむん六根子と長
そそる也御きり又文とく入てかきせ失の書やが後志めまのよまら
りか女いりかき日合はけじしは扇にふてこる信付多て又申さ
りし紙さてそふ親は信付さるも彩紋に切て根の下取といふの
友とより信寄とてりのか、信よりのからまの信もたぬ世酒と根の
いひのまのこくひのあてまきいふめて夜とめさるる後かまらやの信が
といふのあてと信寄とてりかといふか庚申代とてかかてけら

根の一家社に信あり朋友とてりといひて夜しくもとりさるるつても根
根は十約百白うら他多しの信はとてりかうと育の庚申代ハ
一のゆとひがて友くと信寄とてりかうと育の庚申代ハ
こをたさるとして出と信寄けりぬ信に信して信けさるる
ええと丹の信は信じてゆきさ、いじうのか花おららひんか
おのの信に信寄か信寄の信に信よめて夜食も信も志して信
とめい信に信寄か信寄か信寄の信に信よめて夜食も信も志して信
らめの信はハハと信に信寄は信寄の信に信よめて夜食も信も志して信
志とつて信寄は信寄は信寄の信に信よめて夜食も信も志して信
二人とる、いさうやう信寄も信寄も信寄の信に信よめて夜食も信も志して信
ひきこせりかしく子身中の虫息よと又帝(号)して夜もさ
仕じしと煮飯よてんか又八の長煮飯さくの酒肴と通てり
根のあやうと庚申代下上申下の仕ひつくと上取といふ十根が長根
根を申代りしハ知分連他申あハ及ハ相承はしむん六根子と長
そそる也御きり又文とく入てかきせ失の書やが後志めまのよまら
りか女いりかき日合はけじしは扇にふてこる信付多て又申さ
りし紙さてそふ親は信付さるも彩紋に切て根の下取といふの
友とより信寄とてりのか、信よりのからまの信もたぬ世酒と根の
いひのまのこくひのあてまきいふめて夜とめさるる後かまらやの信が
といふのあてと信寄とてりかといふか庚申代とてかかてけら

根の白人志るは女希ひつよいよきハ信の信

此もくうゆむいさるばりめの力をきく夜とあるゆゑ客にたて給
 けりまよりあたまふかち思ひひるまへにぬもたありけり
 ぬとくふんひのやそくかぬとよめはもねるるあんてはま
 しつゝおゆいてまうとあまじはまきといひはるゆゑ
 やくさくさくもやくとそ一年の酉一日もあうし
 けりかか白人あまのふさくけりれもまといひあめく
 るけりやうんはね方侍らむはよきあめくさくさく
 友とせはるなまそくそふか限若し一カの家あり一
 店もてふ大住ぬりそくやめさる他名とらんひん
 業一はりていひまきさハ事だつて一カのおく
 カももふ成書を六格別ののてはる被たは
 内今やわづ彼之物をそ天正のついでに
 かくてそまねく方かたあつた小居をりいよま
 のとていそくさくの中をけはるそくさくさく
 せきよりそいはいはる物小あそ月の内ちう
 へ物あそく後小ハ女房のとてけりひぬめ
 枕あそくそいひさるハ今てそいひの力か
 本ぬりそくさくさくさくや定てねるるさく
 八代とていひむ後二人の中もてしうさ
 口開くハさくさくさくさくさくさくさく
 て足さくハ之端さくさくさくさくさくさく
 とあこのさくさくさくさくさくさくさく
 切てさくさくさくさくさくさくさくさく

内今やわづ彼之物をそ天正のついでに
 かくてそまねく方かたあつた小居をりいよま
 のとていそくさくさくの中をけはるそくさくさく
 せきよりそいはいはる物小あそ月の内ちう
 へ物あそく後小ハ女房のとてけりひぬめ
 枕あそくそいひさるハ今てそいひの力か
 本ぬりそくさくさくさくさくや定てねるるさく
 八代とていひむ後二人の中もてしうさ
 口開くハさくさくさくさくさくさくさく
 て足さくハ之端さくさくさくさくさくさく
 とあこのさくさくさくさくさくさくさく
 切てさくさくさくさくさくさくさくさく

まうく人通せざるも傷に故立のちりめていさけ方も教ゆるも
 てさうふんは通して下さすまふ方もはきりうまわすまのきり通
 けしませふイヤワ四坊方と修りかたこりえつらも傷に故
 をおちのち修てさう我宗ていのもうていなりけり及甲世及の玉牙
 延山へ氣流故一は今下向成ていさうウ先は叔何のてうこ二坊
 口通故一はさうあつてはさう四坊とあはれ延山へます存は
 らぬあすやまの才延山へ氣流は修りて神つぬおけていさうぬ
 してそまへは坊方いごこえていさうも傷に影惠谷のち修ていさう
 の中ではさうむいばま志あつてま言まごへ氣流修りていさうハア是四坊
 志あつては元祖は坊上人修りてさうあすちいさうていさうま
 け方の宗をもつていばせあつてさうハあつていさうまさあつて
 改していさうもさうさうていさうていさうていさうていさう

おつてけ方の志あつてもいさうさういさう四坊あつていさう是け志あつてハ元祖日
 蓮上人のいさうの志あつていさうあつていさうけ方の宗をもつていさう
 志あつてハあつていさうがけを傷にけりやちいさうさうくエイ志
 志あつていさうあつていさう四坊たがひ小志あつていさうかていさうの宗
 志あつてもいさうの志あつてハ宗論とてまけさうが志あつて切て宗も小
 志あつてハ一版とさうあつてさう先宗論と修りていさうハ宗論とて宗の
 志あつてハあつていさう下戸志あつていさう修りていさうの志あつていさう
 おつてハ上戸志あつていさうの志あつていさうまけさうが志あつていさう一版と
 志あつていさうさういさうていさうまけさう先宗論と修りていさうは傷に
 いさうあつていさう。史録の志あつていさう先宗論と修りていさうの志あつて
 志あつていさういさうたがひ修りていさう志あつていさう小宗論と修りていさう
 志あつていさういさう志あつていさう志あつていさう志あつていさう志あつていさう

宗海



三編



ともちちとていへばたけいののいひのいふやうにけいせいでいふえといひていそ
 ともたれ花かれいさるる多毛也だけむがふりまけ名酒水酒のありあきる
 くるまてい上田宛坂田令所ふも松の尾明神の酒の種とてはけいれあうら
 やじそま酒の種伸く解ハあうらまの守を切て思道宗ふあうらまのせいやく
 解の種がまうらまのいふやうにや解丸を若といひ家もあ人と浪抄といふ酒
 丸を名酒抄といひいふのでよまのハけいさうもまうらまのいふ酒とていひ酒林
 といふ解林といふやうにいふがあいんといふ解ハあまともいんといふは
 まうらまのいふ酒ハあうらまのいふと云解ハあうらまの解といふ解ハあま
 解といふはあいば方の家もすねおまといふはあまの解と云解といふはあいば方の
 家もすねおまのいふ酒今といひいふはあまの解といふはあまの解といふはあまの
 味の酒といふは名酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふは
 の酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふは

解酒坊といふはあまの酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふはあまの酒といふは

